

今日は9枚

廊下にある1人ひと鉢。今年度より何個かある候補の中から子どもたちが何の種を植えるかそれぞれが決めてお世話をするようになりました。ハウセンカの種を植えたKくん。園長先生のアドバイスをしっかり聞き、土の表面がしっかり乾いてから水をあげ、お世話と観察がしばらく続いていたそうです。たまたま僕が廊下を通りかかったとき「なおひろ先生！きて！！！」と僕の腕を強く引きます。「今日は9枚なんだよ！」と、とっても誇らしげ。「そっか、すごいくわしいんだね！お世話頑張ってるもんね！」と答えると続けて「あのね、最初は2枚だった、その次は4枚、その次は6枚でその次は8枚だったの！だから10枚だと思ったのに、、今日は9枚なの！なんで！??」と。…僕、答えられませんでした。「なんでだろうね…」と言って一緒に観察しました。こんなにも細かく観察を続け、予測までしながら植物と関わっているKくん。Kくんの持っている虫眼(宮崎駿と養老孟司の著書「虫眼とアニ眼」より)これからも大切にしてほしいなと感じました。

そんな子どもたちの遊びの周りを見渡すと右下の写真が廊下にそっと添えられていました。子どもたちが今、どんなことに興味を持っているのか、今の興味に合うのはどのような環境なのか。前に出過ぎず、子どもたちの遊びを支え、共に探究する。絵本を置いて遊びにスパイスが加わっていたように感じます。

「自然との関わり・生命尊重」

「思考力の芽生え」

「豊かな感性と表現」

6月 年中児保育参観 サンカク会議より抜粋
作成者：福丸直宏

